



不明確な診断をめぐる諸問題の解明

健康開発学科 健康行動科学専攻（健康情報学専攻 2025年4月より）

本間 三恵子 准教授

【研究分野】 医療社会学、ヘルスコミュニケーション
 【キーワード】 不定愁訴（MUS）、医療化、受療行動、説明モデル
 【U R L】 https://researchmap.jp/mieko_homma



研究概要

「健康になるための方法」というより「<健康>を追求する人々の価値観とは？」「<健康/病気>の境界とは？」のように、俯瞰的な視点から「健康」を考えています。

特に自覚症状が強いにも関わらず、診断がつきにくく・効果的な治療法がない、いわゆるMedically Unexplained Symptoms（MUS）をめぐる諸問題を、関係者の意識、解釈、受療行動に注目して明らかにしてきました。最近ではより人文社会的アプローチ、文化・社会的側面に着目して立体的に現状を明らかにしようとしており、特に北欧の取り組みや状況と比較しながら進めています。併せて診断というラベル自体が持つ意味、診断の成立過程についても、多様な利害関係者間の相互作用に着目しつつ考察しています。

研究紹介

1. 診断をめぐる諸問題、医療化（sociology of diagnosis/ medicalization）
2. 健康志向・ヘルシズムと社会文化的事象
3. 機能性疾患の診療における患者・医師の説明モデル（日本・デンマーク）
4. ナチュラル・オーガニック志向とライフスタイル（日米比較）

健康に関わる行動や人々の捉え方を、evidence-basedな選択という側面だけでなく、個人の価値観や文化という視点から広く考えています。

特にこれまで、北欧と米国（ハワイ）をフィールドとした調査を実施してきました。

アピールポイントなど

臨床のトピックに特化しているわけではなく、健康や身体に関わるテーマを中心とした現代社会論という観点で、保健医療福祉以外のテーマにも取り組みたいと思っています。特にメディアや大衆文化と人々の意識・価値観に関心があります。